

越ヶ谷宿めぐりご案内

江戸時代・日光街道・越ヶ谷宿



「諸国道中商人鑑」 竹野半兵衛・壺井円水撰 花屋久二郎刊 文政10 (1828) 年

本日は、家康ゆかりの日光街道・越ヶ谷宿へ、よくいらっしやいました。上の図は、日光街道・越ヶ谷宿の入口にあった「中屋」さん。「みみの薬」とありますが、「二八御めし・めんるい」「御料理」「御茶漬」などともあって、薬屋さんと食堂を兼ねたものだった？ 大相模不動尊への不動道との追分にありました。



日光道中膝栗毛「越谷」
仮名垣魯文作

日光街道は、日光の鉢石まで20宿。他の街道と同じく、起点は日本橋。日光までの距離は142.8 km。38里。当時のヒトは1日10里 (40 km) を歩くのは標準で、日光まで3泊4日の旅でした。日本橋から越ヶ谷までは6里9町 (約20 km)。5番目の一里塚が市内蒲生に、6番目は大沢橋の手前。7番目が間久里 (まくり) にありました。

草加宿と越ヶ谷宿の中間に「蒲生の立場」。名物は焼米 (せんべい?)。越ヶ谷宿と春日部宿との中間に「間久里の立場」。名物は鰻蒲焼でした。